



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和3年10月29日
学校だより11月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き！今井大好き！」

今学校で！『今リンピック』によせてⅡ

学校長 森脇 信行



今リンピックの練習風景

いよいよ今週末は、「今リンピック」が開催されます。先月号の学校だよりで、『運動会の形式は6年生が中心になって、計画を立てています。紅白対抗にするのか、全員で盛り上げる形式にするのか等、6年生の企画が楽しみです。……』という内容を書かせてもらいました。6年生は、全校アンケートを実施して、希望の多かった紅白対抗の形式で運動会を企画しました。全校アンケートに至るまでに、紅白対抗の良いところと問題点、全体で盛り上げる形式の良いところと問題点をそれぞれまとめ、分担して1～5年生の教室で説明をしてから、アンケートをとりました。自分たちが勝手に決めるのではなく、全校児童の考えを尊重して決める姿に感動しました。どのような形式の運動会にするか、決め方まで考慮して、それぞれ民主的に行った6年生。『流石だな』と称えます。

私は運動会と聞くと、走るのが遅く、当日の徒競走のことを考え、少し憂鬱になったことを思い出します。それでも、アスリートがよく使う「努力は裏切らない」という言葉を信じて、一か月くらい前から、毎日走って、練習をしました。「努力の甲斐があった」そんなうれしい結果が出れば、これが一番良いのですが、現実には、そう甘くはありませんでした。

私は運動会と聞くと、走るのが遅く、当日の徒競走のことを考え、少し憂鬱になったことを思い出します。それでも、アスリートがよく使う「努力は裏切らない」という言葉を信じて、一か月くらい前から、毎日走って、練習をしました。「努力の甲斐があった」そんなうれしい結果が出れば、これが一番良いのですが、現実には、そう甘くはありませんでした。

残念なことに、努力はいつまで続ければ結果が出るのかわかりません。取り組んでいる自分でさえもゴールがいつなのかわからない場合もあります。そのうえ、せっかく努力してできるようになっても続けるのをやめると、また元に戻ったりもします。「あれだけ一生懸命やったのに全然駄目だった。」などは人生の常で、なかなかうまくいかないものです。それでも、「無駄だから努力することはやめる」とはならないものです。

人は誰でも成長したいという気持ちをもっています。「今のままの自分でよい」という考えだけだと自分のもっている良さを伸ばすことはできません。ところが努力した経験があると、その時は結果が出せなくても、別の思いもしないところで努力をいかすことができます。自分の良さを伸ばすことにつながります。こう考えると、ちょっと大げさですが、努力は人生そのもので、「生活を楽しむために良い刺激を与えてくれるもの」なのかもしれません。

